

## 宇奈月自立塾 ひきこもり調査

## 精神疾患なし4割

ひきこもりの若者の社会復帰を支援してきた「宇奈月自立塾」（富山県黒部市宇奈月温泉）が、合宿型プログラムを修了した132人を対象に調査を行い、ひきこもりの実態に迫った。ひきこもりの大半が精神疾患によるとする厚生労働省の調査結果と異なり、精神疾患のない人が4割近くいたことが分かった。

宇奈月自立塾では、ひきこもりの若者たちが3、6カ月の合宿生活や就労体験で生活力や社会性を身につけ、自立できるよう支援してきた。2005～11年度に修了した132人の7割以上が就労か進学している。

ひきこもりの調査は全国的に珍しく、また実態がよく分かっていないのが現状だ。塾を運営する「教育研究所」（横浜市）は、厚生省のひきこもりの調査結果と比較分析した。

宇奈月自立塾の修了生132人のうち、6カ月以上のひきこもり経験があったのは109人。この中で40人（36・7％）は何ら精神疾患がなかった。

	宇奈月自立塾	保健福祉センター
統合失調症など薬物療法が必要	39人 (35.8%)	49人 (32.9%)
広汎性発達障害など生活・就労支援が必要	20人 (18.3%)	48人 (32.2%)
適応障害など心理療法的支援が必要	10人 (9.2%)	51人 (34.2%)
精神疾患なし	40人 (36.7%)	1人 (0.7%)
合計	109人	149人

※教育研究所作成

福祉センターにひきこもりの相談に訪れた184人を対象に行った調査では、診断が確定した149人のうち精神疾患に分類されなかったのは1人（0・7％）で、大半は統合失調症や広汎性発達障害、適応障害などに分類されている。

教育研究所の牟田武生理事長は「厚生省の調査結果と違い、宇奈月自立塾では精神疾患のないひきこもりが4割弱。支援の方法も変わってくる」と話す。精神疾患のないひきこもりは、心理的な負荷で身動きできなかつたり、無気力で自分の好きなこと以外やりたがらなかつたり、というケースが見られ、ネット依存者も多いという。

また、ひきこもりの期間別に進路決定率を見ると、ひきこもりが6カ月～1年で78・6％、1～3年で78・3％と大差はなかったが、3年以上で51・0％と落ち込んだ。牟田理事長は「分岐点は3年。それ以上待てば社会復帰が難しくなっていく」と指摘する。

(成川彩)

## ■ ひきこもりと精神疾患